

平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月4日

上場会社名 株式会社 エスイー
 コード番号 3423 URL <http://www.se-corp.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 大

(氏名) 森元峯夫
 (氏名) 塚田正春

TEL 03-3340-5500

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	10,320	15.3	122	△7.3	121	△26.2	37	△5.6
22年3月期第3四半期	8,953	21.8	132	—	165	—	39	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	4.85	—
22年3月期第3四半期	5.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	15,825	5,928	37.5	772.19
22年3月期	16,611	6,082	36.6	791.55

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 5,928百万円 22年3月期 6,078百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
23年3月期	—	0.00	—		
23年3月期 (予想)				20.00	20.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,350	27.1	814	32.3	900	30.3	537	35.3	69.94

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「2.その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年3月期3Q	8,350,000株	22年3月期	8,350,000株
② 期末自己株式数	23年3月期3Q	672,518株	22年3月期	670,541株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	23年3月期3Q	7,678,245株	22年3月期3Q	7,679,459株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
2. 当社グループは、土木建設用資材の受注生産を行っており、主に土木工事を中心とした公共関連工事に使用されております。このため、経営成績は公共投資の動向に影響を受けると同時に、業績は下半期に偏る傾向があります。従いまして、当社の業績予想についても第1～第2四半期に比べ、第3～第4四半期のウエイトが高い業績予想となっております。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の国内経済は、新興国の旺盛な需要から輸出企業を中心に一時は景気の回復基調にありましたが、米国経済の減速懸念等の影響から急激な円高、デフレの進行、厳しい雇用情勢の継続等々の不安要因で、景気の先行きに予断を許さない状況が続いております。

このような経営環境のもと当社グループでは、建設業界での公共投資の減少による市場規模の縮小と価格競争の激化といった困難な問題に対処すべく、中・長期的な安定収益の確保と経営基盤の強化として、次のような取り組みを行ってまいりました。

- 補修・補強市場への取り組み強化策として「リペア・テクノ事業部」を新設（成長市場への積極的な営業強化）
- 水処理関連事業への研究開発と市場参入（連結子会社エスイーバイオマステクノ(株)における研究開発と(株)アンジェロセックにおける海外水処理事業の調査・分析業務）
- 「建設技術審査証明書」（建技審証第0906号）の取得による「FUT-H型斜材ケーブル」の拡販
- 海外（ベトナム）建設市場への事業展開（ハノイ～ハイフォン間高速道路プロジェクトでの施工管理業務の受注獲得）
- PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ=公民連携）への積極的な取組（(株)アンジェロセックによるPPPプロジェクトの提案）

当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりであります。

「環境・防災分野」においては、主力製品の『アンカー』で売上が前年同期に比べ減少いたしました。これは、国および地方公共団体の道路事業や災害対策事業に関連する公共工事の発注が低調であったことを受け、法面アンカーの販売も低調に推移したことによります。一方、非法面アンカーにつきましては、神戸港ポートアイランド地区岸壁工事での耐震補強用に用いられる港湾施設向けの販売が好調に推移したことで、売上高を伸ばすことができました。

「橋梁構造分野」では、新設路線の凍結等により、当社製品の『F型ケーブル』・『FUT型ケーブル』の販売も前年同期に比べ減少いたしました。一方、『FUT-H型斜材ケーブル』につきましては、順調な斜材架設物件の受注に支えられたことで前年同期より販売を伸ばすことができました。もう一つの成長分野であります「補修・補強」市場も工事受注が徐々に増加したことで『外ケーブル』の販売も伸ばすことができました。

また、平成22年1月から連結対象となった(株)キョウエイが当社グループの業績に大きく寄与いたしました。これにより連結売上高は10,320百万円（前年同期比15.3%増）となりました。

利益面では、売上総利益は売上高増加に伴う利益増があったものの、比較的利益率の高い工場製品の販売が伸びず、売上総利益率は前年同期に比べ1.0ポイント下がり27.5%となりました。販売費及び一般管理費は、前年同期比で金額では増加しましたが、対売上高比率では0.7ポイント下げることができました。これにより営業利益は122百万円（前年同期比7.3%減）となりました。営業外費用では「為替差損」28百万円の発生、特別利益では「補助金収入」36百万円の発生もあったことから、経常利益は121百万円（同26.2%減）、四半期純利益は37百万円（同5.6%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間から、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

これに伴い、従来の「建設用資機材の製造・販売事業」「バイオマス関連事業」の2つの報告セグメントを、第1四半期連結会計期間から「建設用資機材の製造・販売事業」「建築用資材の製造・販売事業」「建設コンサルタント事業」の3つの報告セグメントに変更いたしました。

具体的には以下のとおりですが、前年同期比較にあたっては、前年同四半期の数値を変更後のセグメントに組み替えた金額との比較によっております。

(建設用資機材の製造・販売事業)

この事業における分野別状況は次のとおりであります。

○環境・防災分野

この分野では、主力製品である『アンカー』で前年同期に比べ、419百万円21.6%の減少となりました。その要因は、国および地方公共団体の道路事業や災害対策事業に関連する公共工事の発注が低調であったことを受けて、当社製品の法面アンカーの販売も低調に推移したことによります。一方、耐震補強に用いられる港湾施設向けの大型物件（神戸港ポートアイランド地区岸壁工事）の工事進捗が第3四半期は順調であったことから、非法面アンカーの売上高は前年同期に比べ78百万円26.6%の増加となりました。

もう一つの主力製品である『落橋防止装置』は、既設橋梁の維持、補修、耐震化に伴う工事受注および新設橋梁に関する継続案件の工事受注で比較的堅調であったものの、前年同期に比べ、47百万円2.5%の僅かながらの減少となりました。

この結果、この分野での売上高は5,674百万円（前年同期比4.4%減）となりました。

○橋梁構造分野

この分野では、「栄川大橋」「生名橋」「新曾木大橋」といった斜材架設物件の工事が順調に進捗したことで、『FUT-H型斜材ケーブル』の売上が前年同期に比べ186百万円90.0%の増加であったものの、新設路線の凍結等により、当社製品の『FUT型ケーブル』の販売も前年同期に比べ344百万円71.9%の減少となりました。

これにより、この分野の売上高は1,382百万円（前年同期比13.7%減）となりました。

○その他分野

この分野では、施工に用いるジャッキ・ポンプ等の緊張用機材のレンタル売上が伸びず、前年同期に比べ28百万円15.8%の減少でありましたが、当第3四半期から新規事業としてのリペア・テクノ事業部が『補修・補強』関連での売上計上27百万円と寄与いたしました。

この結果、この分野での売上高は178百万円（前年同期比0.5%減）となりました。

以上のことからグループの主力事業である「建設用資機材の製造・販売事業」の売上高は7,235百万円（前年同期比6.3%減）、営業利益は196百万円となりました。

(建築用資材の製造・販売事業)

この事業では、指標となります「首都圏新設マンション着工数」の当第3四半期累計期間の状況は、4月には一旦上向いたものの、5月で腰折れする状況が見られました。その後、再び上向くといった状況で推移いたしました。エスイー朝日(株)においてもこの影響を受けて売上高は前年同期に比べ69百万円7.2%の減少となりました。しかしながら、平成22年1月から連結対象となった(株)キョウエイが第1四半期より連結業績に貢献したことでこの事業の規模は大幅に増加し、売上高は2,703百万円（前年同期比179.9%増）、営業利益は40百万円となりました。

(建設コンサルタント事業)

この事業では、連結子会社である(株)アンジェロセックの海外展開に伴って、規模を徐々に拡大してまいりました。これは、JICA案件である「コンゴキンシャサ市内道路DD/SV入札業務」・「チュニジア国環境プログラム（水処理技術）準備調査」およびハノイ～ハイフォン間高速道路SVに係る高級技術者派遣業務報酬等があったことで、この事業の売上高は358百万円（前年同期比35.0%増）、営業損失は72百万円となりました。

(その他事業)

この区分には上記報告セグメントに含まれない事業セグメントを集約しており、「バイオマス事業」を含んでおります。この事業の売上高は23百万円、営業損失は8百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債および純資産の状況に関する分析

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、資産合計が15,825百万円（前連結会計年度末比785百万円減）でありました。内訳は、流動資産10,308百万円（同573百万円減）、有形固定資産4,001百万円（同76百万円減）、無形固定資産240百万円（同8百万円減）、投資その他の資産1,274百万円（同127百万円減）であります。減少の主な要因は、受取手形及び売掛金が829百万円減少したことによります。

負債につきましては、負債合計が9,897百万円（同631百万円減）となりました。内訳は、流動負債が6,297百万円（同223百万円減）、固定負債が3,599百万円（同408百万円減）でありました。減少の主な要因は、未払法人税等140百万円、社債120百万円、長期借入金393百万円であります。

純資産につきましては、純資産合計が5,928百万円（同154百万円減）となりました。減少要因は、主として株主配当金の支払による利益剰余金の減少によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して156百万円減少して2,335百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、741百万円でありました。主な資金の増加は、税金等調整前四半期純利益が144百万円であったことと、売上債権の減少額831百万円等であります。主な資金の減少は、たな卸資産の増加額409百万円、法人税等の支払額273百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、246百万円でありました。主な要因としては、有形固定資産の取得による支出182百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は、642百万円でありました。主な増加要因は、長期借入による収入446百万円であり、主な減少要因は長期借入の返済による支出797百万円、社債の償還による支出130百万円、親会社による配当金の支払153百万円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年3月期の通期業績予想につきましては、当社を取り巻く市場動向等についての見通しが補正予算等の関連もあり、依然として不透明なことから予測が困難であります。したがって、現時点では平成22年5月12日に公表いたしました通期連結業績予想の変更は行っておりません。現在精査中であり確定次第速やかに発表いたします。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 簡便な会計処理

棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

会計処理基準に関する事項の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益および経常利益はそれぞれ2,642千円減少し、税金等調整前四半期純利益は19,386千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は42,275千円であります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,544,725	2,675,351
受取手形及び売掛金	5,699,343	6,529,037
商品及び製品	363,304	305,505
仕掛品	409,909	157,734
原材料及び貯蔵品	1,041,969	942,864
その他	305,572	324,310
貸倒引当金	△55,906	△52,500
流動資産合計	10,308,917	10,882,302
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,269,138	1,302,796
機械装置及び運搬具（純額）	416,703	473,850
工具、器具及び備品（純額）	82,172	98,269
土地	2,200,210	2,200,210
リース資産（純額）	33,261	—
建設仮勘定	278	3,536
有形固定資産合計	4,001,763	4,078,663
無形固定資産		
のれん	182,394	198,747
その他	58,119	49,905
無形固定資産合計	240,514	248,653
投資その他の資産		
投資有価証券	608,608	609,164
その他	702,064	813,351
貸倒引当金	△36,298	△20,617
投資その他の資産合計	1,274,373	1,401,899
固定資産合計	5,516,651	5,729,215
資産合計	15,825,569	16,611,518

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,881,735	3,886,921
短期借入金	383,922	388,749
1年内返済予定の長期借入金	1,099,374	1,057,248
1年内償還予定の社債	180,000	190,000
未払法人税等	100,319	240,828
賞与引当金	39,120	77,493
本社移転費用引当金	—	26,521
その他	613,417	653,538
流動負債合計	6,297,889	6,521,301
固定負債		
社債	525,000	645,000
長期借入金	2,188,561	2,581,983
退職給付引当金	397,618	387,960
役員退職慰労引当金	403,092	383,820
資産除去債務	42,275	—
その他	42,624	8,700
固定負債合計	3,599,171	4,007,463
負債合計	9,897,061	10,528,765
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,046,100	1,046,100
資本剰余金	995,600	995,600
利益剰余金	4,286,681	4,403,023
自己株式	△246,997	△246,080
株主資本合計	6,081,383	6,198,642
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,301	19,835
為替換算調整勘定	△170,176	△139,815
評価・換算差額等合計	△152,875	△119,979
少数株主持分	—	4,090
純資産合計	5,928,507	6,082,752
負債純資産合計	15,825,569	16,611,518

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	8,953,148	10,320,879
売上原価	6,396,831	7,479,916
売上総利益	2,556,316	2,840,963
販売費及び一般管理費	2,423,693	2,717,973
営業利益	132,623	122,989
営業外収益		
受取利息	621	637
受取配当金	1,643	1,919
受取手数料	16,034	14,097
受取家賃	8,208	14,735
持分法による投資利益	69,168	49,522
その他	13,265	26,833
営業外収益合計	108,941	107,744
営業外費用		
支払利息	51,984	62,501
売上割引	11,680	13,598
為替差損	—	28,196
寄付金	1,669	3,321
その他	11,139	1,262
営業外費用合計	76,475	108,880
経常利益	165,089	121,853
特別利益		
固定資産売却益	126	96
投資有価証券売却益	31	—
補助金収入	—	36,007
貸倒引当金戻入額	5,484	8,071
特別利益合計	5,642	44,175
特別損失		
固定資産売却損	276	12
固定資産除却損	4,320	3,637
固定資産臨時償却費	8,329	—
本社移転費用引当金繰入額	29,056	—
ゴルフ会員権評価損	—	1,050
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	16,744
特別損失合計	41,983	21,444
税金等調整前四半期純利益	128,749	144,584
法人税等	91,991	111,427
少数株主損益調整前四半期純利益	—	33,156
少数株主損失(△)	△2,698	△4,090
四半期純利益	39,455	37,246

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	128,749	144,584
減価償却費	227,265	227,279
固定資産臨時償却費	8,329	—
のれん償却額	16,353	16,353
固定資産除却損	4,535	3,721
持分法による投資損益(△は益)	△69,168	△49,522
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△17,449	19,087
賞与引当金の増減額(△は減少)	△47,758	△38,372
退職給付引当金の増減額(△は減少)	14,888	9,658
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△9,540	19,272
本社移転費用引当金の増減額(△は減少)	29,056	△26,521
受取利息及び受取配当金	△2,265	△2,556
支払利息	51,984	62,501
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	16,744
売上債権の増減額(△は増加)	1,078,837	831,535
たな卸資産の増減額(△は増加)	△275,065	△409,079
仕入債務の増減額(△は減少)	△775,022	△4,881
その他	△88,985	156,139
小計	274,745	975,943
利息及び配当金の受取額	14,452	24,891
利息の支払額	△53,947	△58,250
法人税等の支払額	△201,877	△273,964
その他	5,774	73,331
営業活動によるキャッシュ・フロー	39,146	741,952
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△30,000	△25,657
有形固定資産の取得による支出	△186,734	△182,434
有形固定資産の売却による収入	601	1,246
無形固定資産の取得による支出	△6,906	△23,730
投資有価証券の取得による支出	△8,726	△15,249
投資有価証券の売却による収入	1,500	—
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△1,123	△4,441
貸付金の回収による収入	2,057	1,067
保険積立金の解約による収入	11,784	6,507
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△567,433	—
資産除去債務の履行による支出	—	△3,572
投資活動によるキャッシュ・フロー	△784,980	△246,263

(単位：千円)

	前第3 四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	207,200	△4,827
長期借入れによる収入	1,700,000	446,000
長期借入金の返済による支出	△933,446	△797,296
社債の発行による収入	450,000	—
社債の償還による支出	△100,000	△130,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	—	△1,653
配当金の支払額	△153,674	△153,389
自己株式の取得による支出	—	△916
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,170,079	△642,083
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,970	△9,889
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	421,274	△156,283
現金及び現金同等物の期首残高	1,482,183	2,491,550
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,903,458	2,335,266

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	建設用資機材の 製造・販売事業 (千円)	バイオマス 関連事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	8,950,693	2,454	8,953,148	—	8,953,148
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,950,693	2,454	8,953,148	—	8,953,148
営業利益又は営業損失(△)	650,078	△ 22,480	627,597	(△494,974)	132,623

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

建設用資機材の製造・販売事業・・・アンカー、落橋防止装置、KIT受圧板、PC用ケーブル、
外ケーブル、斜材、沈埋函耐震連結装置等、
コンクリート型枠用特殊ボルト（セパレーター等）

バイオマス関連事業・・・・・・・・・・有機性廃棄物処理装置

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業内容によって区分し、事業ごとに包括的な戦略を立案し活動を展開しております。

したがって、当社グループは、「建設用資機材の製造・販売事業」、「建築用資材の製造・販売事業」、「建設コンサルタント事業」の3つを報告セグメントとしております。

「建設用資機材の製造・販売事業」は、構造物に用いられる土木建設資材である「アンカー」、「落橋防止装置」、「PC用ケーブル」、「外ケーブル」、「斜材」等の製品を製造・販売しております。

「建築用資材の製造・販売事業」は、建物に用いられる建築資材である「セパレーター」、「吊りボルト」などの建築用関連製品を製造・販売しております。

「建設コンサルタント事業」は、国内建設コンサルタント業務および海外での道路、橋梁、建機、水、エネルギー、開発調査等に係るODA市場での幅広い建設コンサルタントサービスの提供を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	建設用資機材の製造・販売事業	建築用資材の製造・販売事業	建設コンサルタント事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,235,250	2,703,663	358,789	10,297,703	23,176	10,320,879
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	23,067	23,067	388,932	411,999
計	7,235,250	2,703,663	381,856	10,320,770	412,108	10,732,879
セグメント利益又は損失(△)	196,715	40,695	△72,363	165,047	△8,605	156,441

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バイオマス事業等を含んでおります。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	165,047
「その他」の区分の利益	△8,605
セグメント間取引消去	10,124
全社費用(注)	△27,223
のれんの償却	△16,353
四半期連結損益計算書の営業利益	122,989

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない研究開発費等に係る費用であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。